

話題がいっぱい /
なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえトピックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



9/5 3つの女子サッカー大会で優勝

女子サッカーチームCasa Okinawa aleに所属する浦西中学校1年生の金城杏菜さんと塩川健勇監督らが、優勝報告のため市役所を訪れました。

中学生が主力のチームは、コロナ禍で練習に全員が揃わない日もある中、中学生女子サッカーの九州沖縄大会と、中高生が出場する県大会、中学生から社会人までが出場する沖縄県女子サッカー夏季選手権大会をチームワークと緻密な戦術でそれぞれ優勝しました。

さらに今後も大会出場を控えていることを聞いた松本市長は「怪我や体調に気をつけてがんばってください。浦添から活躍する選手がたくさん出ると嬉しいです」と応援の言葉をかけました。



8/27-28 3年越しのフェスティバル初開催!

浦添市産業振興センター・結の街で、「結☆ゆいフェスティバル2022」が初開催されました。当初は、2020年開催を予定していましたが、コロナ禍の影響もあり、計画から3年越しの開催となりました。主催者である浦添商工会議所(結の街指定管理者)の西村聡会頭は、「市内企業11社による物産展や飲食ブース、親子で楽しめるパソコン教室、はたらく車体験など、たくさんのイベントを通して、浦添の地場産業を見て、触れて、体験してもらえると嬉しい」と話し、来場者からは、「子どもが楽しみにしているはたらく車体験と、私はまーさん市場の野菜詰め放題を目的に来ましたが、たくさんゲットできました!他のイベントも楽しみたい」と笑顔で話しました。



8/27 芸大生らが琉球芸能を地域にお届け

県立芸大生や卒業生らが主体となって、企画制作や運営を手掛けた「琉球芸能出前公演in屋富祖公民館2022」が昨年に続き開催されました。今年は、地域にゆかりのある飲食店のキッチンカーも人気を集めました。

観覧した人からは「若い人たちが頑張っていて、年配の人も喜んでいる。演舞も素晴らしかった」「他の地域でも公演してほしい」との声があり、実行委員長で屋富祖出身の波平宇宙さんは「本公演の『屋富祖口説』では、アレンジや音曲構成も手掛けました。今の琉球芸能があるのも先人たちのおかげ。しっかり伝統を継承しながら、住民同士の交流の場になるよう、今後も琉球芸能を通して地域に恩返しをしていきたい」と話しました。



9/12 クロスワード下敷きで水道を知ろう!

毎年6月1日から7日を水道週間として、全国で水道について知ってもらう取り組みが行われています。

本市では、水道のことを学習する市内の小学4年生に、「うらそえみずクロスワード」下敷きを配布しました。今年度は、てだこキッズファースト宣言大使キャラクター「てだ子」と公共交通キャラクター「うらちゃん」が、松本市長と共に下敷きを配布するため宮城小学校4年4組の児童を訪ねました。

市長の合図のもと、クラス全員で呼びかけると「てだ子」と「うらちゃん」が登場し、歓声が上がりました。下敷きを手渡された児童はみんな嬉しそうな表情を浮かべていました。



9/5 長年の地域貢献で春の叙勲を受章

長年にわたり地域に根ざした活動を行い、功績顕著な人へ内閣総理大臣から贈られる旭日単光章(じよくん)を前田公務員宿舎自治会長の新里幸代さんが受章しました。

新里さんはこれまで自治会長を29年間、民生委員・児童委員を24年間歴任した実績や、数多くの取り組みへの参加など地域の社会福祉に大きく貢献してきた功労が認められ、このたびの受章となりました。

章を受け取った新里さんは「転勤族の多い地域で37歳の時から自治会長を務め、地域の人たちに支えられてここまで来れました。今まで多くの人と関わることが私の大事な宝物となっています」とこれまでを振り返りました。



8/25 交通安全を守る「小さな親切」を表彰

身近にいる「しんせつさん」に、感謝を込めて表彰を続けている公益社団法人「小さな親切」運動本部から、前田小学校周辺で交通安全指導を長年続ける上原良雄さんに賞状と実行章が贈られました。

行政書士で運動本部会員である推薦人の仲村さん(写真右)から賞状を受け取った上原さん(写真左)は、子どもたちの安全をそれぞれの地域や職場などで守っていくという話を聞いたことがきっかけで、平成19年(2007年)から活動を続けています。

見通しの悪い道路を前にしながら「欲張りかもしれないが」と前置きし「あと10年を目標に今後も活動を続けていきたい」と笑顔で意気込みを話しました。



8/17~19 宮崎県日向市を中学生平和交流団が訪問

浦添市中学生平和交流団は、浦添国民学校の児童が疎開した宮崎県日向市を訪問し、戦跡巡りや戦争体験者の講話から戦争と疎開の実相を学びました。また、日向中学校との交流では、平和な世の中の実現に向けて今できることについて意見を出し合い、平和に対する考えを深めました。曾祖母が日向市に疎開したという団員の仲西中学校2年の幸地葵生さんは、「家族と離れ寂しい思いをさせていただくけど、自分まで命を繋いでくれたことに感謝したい」と戦争を自分事として捉えていました。

団員は、学習したことを生かし、今後平和を発信するピースメッセンジャーとして活動します。